

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100392		
法人名	有限会社 クラウド		
事業所名	グループホーム幸樹		
所在地	秋田市泉南1丁目4番20号		
自己評価作成日	令和元年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	令和元年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の暮らしやすい環境に立地する2ユニットのグループホームです。ユニットがひとつの家族として、利用者、職員共に支え合い、ゆっくり楽しく生活をしています。また、地域一員として、花壇の手入れや清掃、お祭り等の町内行事に参加し、交流が来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民との関係性を重視し、運営推進会議を通じて地域の理解と協力を得、また、職員間の情報共有を密にすることで、利用者の置かれている環境及びこれまでの生活に配慮しつつ、利用者の自由と安全を守れるよう支援しています。経験の長い職員が多く、利用者も落ち着いて生活している様子が感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が事業所の理念を理解し、実践しています。	職員が策定した理念であり、サービス提供する上で大切なものとして利用者との日々の暮らしの中で実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の普段の散歩や地域行事への参加を通して、地域住民の皆さんとあいさつを交わし、交流できています。	ホームの前が公園になっていることもあって地域の方とは交流しやすい立地環境であり、地区の防災訓練、ホームの避難訓練も相互に協力し合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で支援実践状況を報告することにより、地域の方や家族の認知症の方に対する理解を深めていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、状況報告を行い、参加者の皆さんから意見をいただき、サービス向上に努めています。	ホームの取り組みや利用者の状況を報告する中で参加メンバーから意見を出していただき、ケアに反映できるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の質問や諸手続きについて、相談できています。また、生活保護受給者のおむつ代の申請等で協力関係ができています。	制度上の相談を行う等、連携が図られています。今後も包括支援センターとも積極的に連携が図れるよう取り組んでいけるよう検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身の状態に寄り添い、拘束しないよう工夫し、ケアに取り組んでいます。	職員はミーティング等を通じて拘束による弊害をよく理解しており、状況に応じて家族へも説明しています。気になる言葉遣いがあった時には職員同士が気付いた時に注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について学ぶ機会を設け共通理解を持っています。特に言葉掛け等日常的に起こりうることであるため、自尊心に配慮した対応を心がけ、ケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会設け、必要ときには活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や前段階より、ご本人やご家族が不安を抱かれないよう、十分説明を行い理解・納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に面談するなどして意見要望をうかがうようにしています。また、運営推進会議参加時に意見される方もいますので、反映するよう努めています。	家族から意見が出ることはそんなにありませんが、遠慮があるということもよく理解し、家族を知ることも大切なこととして取り組んでおり、面会時の状況報告や家族へのお便りを通じて意向を引き出すように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや面談、日々の関わりを通して、職員の意見や提案を聞き、反映できています。	職員からは積極的に意見が出され、要望等は代表に伝わる環境もあり、また、ユニット間の職員の連携も良くとられて日々のケアに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いや状況を管理者が代表者に伝え、各自が働きやすい職場環境の整備に努めています。また資格に応じた手当を設け、職員が向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加の機会を確保し、参加後は研修報告や伝達講習を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の会員で定期的に研修会に参加しています。意見交換を通して、同業者との交流ができており、サービスの質の向上に繋がっていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症により要望や不安を表現できない方もいますが、表情や会話から思いをくみ取るように努め、入居後も安心して生活していただく事ができるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には耳を傾け、出来る限り要望に沿うように努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力を把握し、職員が共に行う事で、生活を共にする者同士の関係を築いています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で近況をお伝えしています。また面会時にも話やすい雰囲気を作るよう心がけ、ご家族からアドバイスをいただいたりもしています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会でき、その際はくつろぎやすいスペースを作るよう心掛けています。また一時帰宅された時には、ご近所の方と交流されたり、遠方の方とは、電話や手紙を通じて、関係が途切れないように支援しています。	旧知の方と手紙や電話で交流している方や毎月帰宅している方もおり、これまでの生活や馴染みの関係が継続できるようその人の思いに沿った支援が行われています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を工夫したり、利用者同士の関係性をみて、一緒に参加できるレクリエーションやお手伝いを通して関わる環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方から再入居の相談をいただき、契約された方や待機されている方もいらっしゃると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や生活の様子から、各々の希望や意向を把握できるように努めています。また、認知症のため表現できない場合にも本人本位にケアマネジメントを行っています。	利用者と接する中でその思いを把握するように努めています。気付いたことは申し送りや連絡ノートで情報を共有し、日々のケアに活かされています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを継続できるように、入居に至るまでのサービス利用経緯や生活歴などの把握に努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、一人ひとりの現状把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日々の関わりを通して気づいたことを職員・関係者間で情報共有し、現状に即した介護計画を作成しています。	カンファレンスで積極的に意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践内容を個別に記録し、職員間で情報共有して、本人の状態に合わせたケアの実践や計画の見直しに活かされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が行きたい場所や興味あることの把握に努め、行きたい場所には一緒に出かけたりして楽しみのある暮らしができるよう支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿って、通い慣れた病院、医師の診察がうけられるよう支援しています。また、協力医とはいつでも連絡がとれる体制が整っています。	本人の希望に沿って受診しており、家族が通院介助を行うこともあって、看護師が通院手帳を作成して対応しています。状況に応じて往診が可能であり、協力医との関係づくりも行なわれ、適切な医療支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での表情の変化、排泄時や入浴時の身体状況の変化に気付いた際は、すぐに看護師に報告・相談し指示を仰いでいます。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医療機関や家族と連携を取り、情報交換を行っています。入院中は定期的に見舞いをして状況把握に努めています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をしているが、状況に応じ、ご家族と話し合いを行い、事業所の方針を理解いただいたうえで、意向に沿った支援をしています。	ホームでの看取りに対応しており、希望に応じた支援が行われています。家族の協力も得られています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の普段の状態を把握し、事故を未然に防ぐよう努めています。初期対応や応急処置については定期的に看護師より説明を受けています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会を設置し、災害発生に備えています。防災訓練や研修等ですべての職員が身につけられるように努めています。また、定期的な訓練時には、地域住民の参加もあります。	事故防止委員会が中心となって年2回避難訓練を行っています。発電機の使い方を確認し、夜間想定訓練も行っています。	居室やホールが掃き出し窓となっている特徴を活かし、窓から避難できる工夫も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の先輩であるということを忘れず、敬意をもって、人格を尊重した言葉かけに配慮しています。	利用者の意思を尊重し、散歩や入浴、食事等個々の性格に応じた支援が行われています。排泄に関しても誇りを損ねることのないよう対応しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者の思いや希望を傾聴し、受け止め、自己決定できるように働きかけています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れにとらわれず、一人ひとりの生活のリズムやペースを大切にして、可能な限り、本人の希望に沿った支援をしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により訪問美容をを利用しています。また、整容についての声掛けや介助、季節感のある着衣に配慮しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを把握し、提供しています。能力に合わせて、料理の下ごしらえ・盛り付け・食器洗いや食器拭き等のお手伝いをしてもらっています。また、食材の買出しにも一緒に出かけたりもします。	進んで手伝ってくれる利用者もおり、その人の能力に応じた力を発揮していただいています。畑で季節の野菜を作り、献立に取り入れています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた家庭的な献立を作成し、一人ひとりの状態に合わせ、食事形態についても工夫をしています。また、水分量・食事摂取量の把握に努めています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。本人の能力に合わせて必要に応じて介助を行い、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した声掛けや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。	尿意のない利用者もおりますが、適切に誘導、声かけをし、トイレでの排泄を支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、乳製品の提供や水分補給、適度な運動にて、自然排便できるよう支援しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い体調をみて、無理なく、入浴していただいています。また、つなぎ温泉の温泉浴も喜んでもらっています。	拒否の強い利用者はなく、その時々希望や状態に応じて週2～3回入浴できるよう柔軟な支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを把握し、室温等にも配慮しながら、安眠できるように支援しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往歴や病状を把握し、処方薬の効能の理解に努めています。また処方薬の変更時には看護師より報告を受け、周知しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出にて気分転換をしていただいています。趣味や特技を取り入れ、張り合いのある生活を送られています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる外出の機会を設けています。また、散歩や買い物、町内行事や家族との外出など希望に沿った外出が出来るように支援しています。	お花見やドライブ等を企画して外出している他、買い物や所用の際に利用者を誘い、状況に応じて気軽に戸外に出られるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者については、家族と相談の上、少額所持しています。買い物の際、所持金から支払うこともあります。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話は本人に繋いでいます。手紙や荷物も本人に渡しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がストレスを感じることなく、心地よく生活できる空間づくりを意識しています。利用者が作成した折り紙や塗り絵で季節感のある飾りつけをして、楽しんでもらっています。また、衛生面や温湿度管理にも気を配っています。	共用のスペースは清潔感のある空間となっており、浴室、トイレは広く造られていてゆっくり使用でき、台所には作業台が設置されていて利用者が職員と一緒に使用できる広さになっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にもリラックスできるようソファを置いたり、気の合った利用者同士がコミュニケーションを取り易いよう、工夫しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた使い慣れた家具や仏壇等を持って来て頂き、自由に配置する事で自宅で生活していたときのように居心地良く過ごしてもらっています。	居室内も清潔に管理されており、落ち着いて暮らせる環境となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ等が、分かりやすいように工夫しています。また、手すりが設置されており、安全に移動できるように整備されています。		